

魔 と 難

私たちに悪影響を及ぼすものには「魔」と「難」があります。この二つの落とし穴には大きな違いがあり、人生を叩きつけて、どん底に落すことがあります。

「魔」とは、煩惱や業、過去の報いによって悩みや苦しみを自ら作るものです。これは自分の内面から生じてきます。怠け心を起したり、嘘をついたり、甘い誘惑の罠にひっかかったりするときは、魔が刺しているのです。犯行の動機は、魔が刺して行なってしまったという例が多いようです。最初の一回で魔に気がつけば助かります。しかし、魔に馴れてしまうと犯罪に発展していきます。マーラという悪魔の神が人間の心を麻痺させるのです。

それに対して「難」は、突然のように災難や事故などがふりかかってくる出来事です。あるいは、他から難題をふっかけられることもあります。これは外面から力を加えられるアクシデントですから、自ら防ぐことはなかなか難しいようです。災難をいかに受け止め、将来に向けていかに善処していくかが自分自身に問われます。

私たちは自らの行為や思念、環境、社会などからいろいろな「魔」と「難」の影響を受けながら生活をしています。肉体は両親からいただいた器です。この器は病気になったり、怪我をしたりして、ガラスのようにもろく壊れやすいものです。そのガラスのなかに盛られている心は、魔や難に対処しながら次第に練られていきます。

災難は自然からのいたずらです。受け止めねば仕方ありません。家族の一員として、社会人として、歯を食いしばってでも生きていかなければなりません。しかし、災難に遭遇し、他から温情をうけることによって数々の教訓を学ぶことができます。被災地への支援が大きな力となっているニュースが毎日のように報道されています。

私たちは悲しみをありがたさに切り替える心のチャンネルを持っています。災難はいつどのように訪れるかわかりません。不幸にあえば取り乱してしましますが、自分をいたずらに嘆いて、魔のとりこにならないことです。魔が入ればとんでもない過ちを犯しかねません。

悲しいときにこそ人と交わることです。ひとり淋しく思い悩まないことです。つらいときには悲鳴をあげて助けを求めればいいのです。人間関係は、良いときも、悪いときもお互いさまです。母親がわが子を心配するように、観音さまは衆生の煩悶に聞き耳を立て、慈愛の眼で世間の苦しみをご覧になっておられます。難儀なときにこそ魔が入らぬように、観音さまに手を合わせてください。